

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 前田 泰宏

最終学歴	関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程（1979年3月）
取得学位	文学修士
所属学会	日本心理臨床学会、日本心理学会、日本精神分析学会、日本行動療法学会、日本家族療法学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本ブリーフサイコセラピー学会
現在の専門分野	臨床心理学、心理療法
研究課題	心理療法（ブリーフセラピー、折衷と統合）、不安と抑うつ of 臨床心理学的研究

【研究上の特記事項】

2002年度から6年間、協同研究者と共に心理臨床学会の自主シンポジウムにおいて継続的に取り組んできた「基礎心理学と統合・折衷的心理療法の協同に関する研究」を取りまとめて、「これからの心理臨床-基礎心理学と統合・折衷的心理療法のコラボレーション」と題する編著書として、ナカニシヤ出版より発刊した。

【社会的活動】

大阪府臨床心理士会理事（2002年度から）
ブリーフセラピー・ネットワークジャパン理事（1998年度から）
スクールカウンセラー全国大会運営委員（2008.8.25-26）
日本催眠医学心理学会第53回大会準備委員会委員（2007.10.5-8）

【学内活動】（学内職歴を含む）

社会学研究科長、臨床心理クリニック所長、学生相談室長、学部内教務委員、地域連携教育研究センター運営委員

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
これからの心理臨床 - 基礎心理学と統合・折衷的心理療法のコラボレーション	共編著	2007年10月	ナカニシヤ出版	よりよい心理臨床的援助に向けた取り組みをする上で、科学者としての姿勢（基礎心理学の重視）と実践家としての姿勢（統合・折衷的心理療法の実践）が重要であり、両者のコラボレーションのあり方について論議した研究実践書である。
（学会発表）				
自主シンポジウム「『共感』再考 - 基礎と臨床の協同の観点から」 - より良い心理学的相談援助に向けて：その6」	単	2007年9月	日本心理臨床学会第26回大会	統合・折衷的心理療法における共通要因アプローチの立場から、「治療的共感」の意義と機能、ならびにその実践上の留意点について話題提供し、論じた。

(その他) 報告書など				
受容することと変化の可能性をひらくこと - 学生相談における援助的アプローチとは(その3) -	単	2008年3月	奈良大学学生相談室報告書第14号, 25-28.	学生相談における援助において、受容することだけでなく、変化の可能性をひらくような働きかけが重要であることを論じた。
指定大学院の指定を受けて：奈良大学大学院(2種) - 社会学研究科社会学専攻臨床心理学コース	単	2008年1月	臨床心理士報第19巻第1号34, 21-23.	奈良大学大学院社会学研究科社会学専攻臨床心理学コースが指定を受けるに至った経緯、本コースのカリキュラム内容の紹介、臨床心理クリニックの紹介、ならびに本コースの今後の課題について論じた。
(その他) 講演など				
社会生活と心の健康	単	2007年5月12日	平成19年度高の原カトルチャーサロン - 奈良大学心理学講座	社会生活の中で生じる様々なストレスと心の病理について平易に解説した上で、主として「こころのゆとり」という観点から「こころの健康」を維持するポイントについて論じた。
思春期の子どものおこころと身体	単	2007年10月20日	平成19年度「思春期おたすけ講座(興東公民館主催)	思春期の子どもおこころの諸相と病理、ならびに身体的特徴について平易に解説した上で、子どもの健全なおこころの発達を促す「親子関係のあり方」について論じた。
こころのケアと健康	単	2007年10月26日	平成19年度斑鳩町地域家庭教育講座	心の病理と健康について平易に解説した上で、心のケアのポイントについて論じた。
中年期の心の危機とその対応	単	2007年11月30日	平成19年度地域デザイン講座「こころの健康について考える」	中年期の心理社会的危機の諸相について平易に解説した上で、その危機をどのように乗り越えるかのポイントについて論じた。講演後、一般参加者および本学学生との交流会を持った。
実効性のあるカウンセリング・心理療法の実践を目指して - 統合・折衷的心理療法における共通要因アプローチ -	単	2008年3月22日	CDA勉強会(第50回記念講演)	キャリアデザインアドバイザーや産業カウンセラーの勉強会における招待講演。実行性のある相談援助のポイントについて、「統合・折衷的心理療法の立場」から論じた。